山口高等中学校時代の面影を残す石垣（現：パークロード）

創基 200 周年

山口大学の来た道 2

企画　山口大学図書館

200th Anniversary
YAMAGUCHI UNIVERSITY
「志」つなぎ 伝える 二百年

創基 200 周年

山口大学の来た道 2

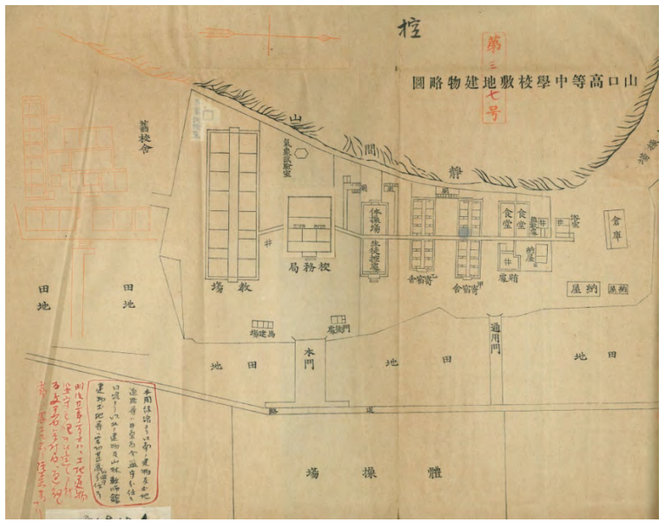
山口中学校から県内初の高校創立へ

2011 年度山口大学図書館企画展示

明治という新しい時代の訪れとともに、国の政策も大きく変わっていった。
明治5年には、わが国で最初の近代学校教育制度に関する法令「学制」が発布され、全ての国民に教育を行うという国の方針が示された。

山口県では、郷土の教育を復興せんと、毛利元徳を中心に防長教育会が創設され、これを基盤として県の教育界は発展していく。
防長教育会やそれに関わる者たちの熱意は、やがて山口県独自の進学体系の確立へとつながった。

転変する時代の中で、山口県の教育は徐々にその形をあらわしつつあった。



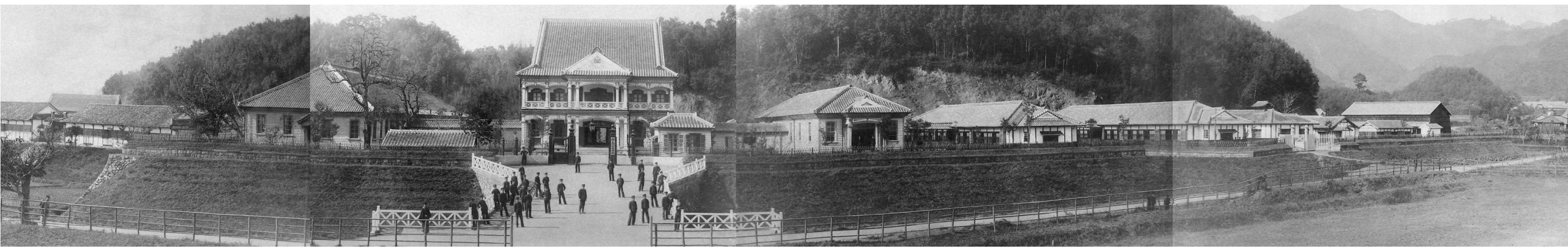
山口高等中学校全景（明治20年頃）
左は校舎配置図

Contents

激流に挑む防長教育
明治初期、山口県も新時代の激流に飲み込まれた。幕末の教育体制から新時代への移行は試行錯誤を重ね、独自の施策を必死で模索した。

官立山口高等中学校
明治19年、全国に5校のナンバースクールが設置された。山口県では防長教育会を後ろ盾として特例的に官立高等中学校が設立された。帝大卒の優秀な教師陣を集め、一貫した中等教育体系を実現した。

県内初の高校誕生
明治27年、学制改革により高等中学校は高等学校へと改称。官立山口高等学校は大学予備門としての位置付けから、全寮制の厳しい教育を課し、結果として卒業生のほとんどが帝国大学へと進学した。

教える道の発祥　-師範学校-
国民皆学を実現するためには、教員養成が急務だった。明治10年、山口県教員養成所を設立し、国の政策とともに師範教育の基礎を確立していった。

実業教育の芽生え　-農学校-
明治の日本にとって、殖産興業もまた急務だった。山口県実業教育の始まりとして、明治18年に山口農学校が開設。農業の振興と地域文化の向上に寄与する人材の養成を目指した。